

生涯学習としての『囲碁の楽しみ』

大石 清

伊藤博文、大久保利道、西郷隆盛など、明治の元勳たちは大の碁好きであったという。江戸幕府最後の将軍となった徳川慶喜も、瀬越憲作名譽九段に五もく置いて打ったという記録があるので、最近のレベルで立派な五段(アマ)といえるだろう。戦国時代の武将織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三人も大の碁好きで、当時の名人クラスの碁打ちを集めて家元制度をこしらえたといわれている。当時の権力者の厚い保護を受け、日本の碁の技術は急速に進歩し、現代碁界隆盛の一因となっている。

また、平安時代、紫式部の「源氏物語」、清少納言の「枕草子」に碁の専門用語が使われているので、両才媛は相当に碁を打ち、碁を愛していたと推測される。

さらに時代が溯り、万葉集や古事記にも「碁師の歌」「碁」の文字が使われているそうである。このように碁は大昔から大勢の人によって打ち継がれてきたが、その起源については、誰も知るものがないというのが何となく興味深い。

歴史が始まったときには、もう碁があったと先人たちは認めている。

碁は大昔に中国の聖天子、堯舜が作ったと伝承されているのみで、日本においては先人たちの不屈の情熱が、日本の国土の好条件を得て、むしろ日本の碁が世界に冠たるものに醸成されたとするのが妥当である。

生涯を通じて碁に献身した先人たちを知ることにより、私は碁にはまり込んで既に四十八年。碁は、ボケ防止、商売作戦、心の裡を語り合える友達づくりなど、いろいろの効用があり仕事の傍ら「碁キチ」と言われる程に諸々の碁会所で碁を楽しんでいる。碁は、三六一個の石の組み合わせにより作戦は天文学的な数値になり、そこに碁の奥深さがあり、魅力がある。

私は生涯この伝統文化を学び研鑽を続けたい。現在、都留市においては、子ども碁教室や高齢者の社会参加促進を図る目的で、碁教室が開催されているが、益々の隆盛を望みたい。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



【私についての生涯学習】

三森 智英

私にとっての生涯学習は歴史を学ぶことです。今、特に関心があるのは経営史に関することです。日本には優れた会社が数多くあります。規模が大きく効率のすぐいい会社もあれば、着想がすばらしく他社にはまねのできない技術・システムを確立している会社もあります。そのような会社の成功の秘訣は人にあると感じたからです。

私は以前金融機関に勤め、企業の評価をする仕事をしていました。大きな会社や老舗で現金資産が多い会社・金はないもののいいアイデアを持ったベンチャー企業まで様々でした。いずれも評価できる点や心配される点を多く持っていました。いつも審査をするときに迷ってしまいました。

ある時、会社の勧めで日本興業銀行の行う研修会に参加しました。架空の企業を使い審査の勉強を行いました。そこでの最終的な判断は経営者に対する評価で決定することを学びました。内容に関しては賛否両論があると思いますが、私は高く評価しました。

この研修を通じて経営者に対する興味関心が生まれたことが収穫となりました。企業のトップとして会社の方向性をどこに向けていくのか、どんな仕組みづくりが会社を支えているのか、リーダーとしての資質とは何か、興味は尽きません。

企業の評価は業績によってあつという間に変わってしまいました。産業構造の変化により、優良企業も斜陽産業の老舗になってしまふ危険性を常に抱えています。その変化の早さも面白いと感じると危機に對しどう備えるのか、どんな企業へと脱皮していくのかわくわくするような気持ちになります。傍観者でありながらも一時も気が抜けません。関心のある企業ひとつでいいですから長い期間継続して見てみるのはいかがでしょうか？

社長の方向性・考えていることなど自分の人生にも有益なこともあると思います。企業ウォッチングを楽しんで始めてみませんか。

